



# 中川町まち・ひと・しごと創生総合戦略

平成28年3月

中川町

## — 目 次 —

1. はじめに.....	1
2. 計画期間.....	1
3. まち・ひと・しごと創生総合戦略との関係.....	2
4. 第6次中川町総合計画との関係.....	3
5. 取組み体制と戦略の展開.....	4
(1) 取組み体制.....	4
(2) 戦略の展開.....	5
6. 目指す姿.....	6
7. 基本目標.....	6
8. 具体的施策と重要業績評価指標（K P I）.....	7
(1) 高齢になってもずっと住み続けられる町.....	7
(2) 地域の特色を活かした産業の振興で、新たな雇用創出.....	8
(3) 中川町特有の資源を最大限活用し、交流人口拡大.....	9
(4) “田舎暮らし”希望者の移住・定住化.....	11
(5) 安心・安全で楽しく子育てができる環境づくり.....	12
9. 参考資料【町民アンケート調査】.....	14

## 1. はじめに

1906年(明治39年)に中川村として誕生の後、1964年(昭和39年)5月1日に町制が施行された中川町は、2004年(平成16年)10月に北海道遺産に選定された北の大河“天塩川”や、日本最大級のクビナガリュウの化石が発掘された白亜紀の地層、多様な生態系を支える北海道大学中川研究林など、特色ある自然環境に恵まれた町です。また、本町で拓殖医をしていた兄を訪ね、中川に滞在して多くの歌を詠んだ斎藤茂吉、幕末から明治にかけての探検家で、当地にも宿泊した松浦武四郎、さらに近年では天塩川流域最大級のオフイチャシ跡が発見されるなど、歴史・文化面においても他にはない特徴を有しています。

産業経済面は農林業を基幹産業とし、酪農とともに、冷涼な気候等を活かした最北の畑作地帯として、耕畜連携によるクリーンな農産物の生産を目指しています。林業については「森林文化の再生」をテーマとして、豊富な森林資源を活用し持続可能な林業経営を進めています。また、森林の持つ多面的な機能を利活用し、近年の健康や体験をテーマとした観光ニーズに結びつけながら、天塩川でのカヌー体験やグリーンツーリズム、白亜紀の地層を活用した体験学習など、地域の特色を活かした交流人口の拡大への取組みも積極的に展開しています。

中川町の人口は、1957年(昭和32年)の7,337人をピークに、都市部への人口流出や少子高齢化により減少を続け、2010年(平成22年)には1,907人となり、最も多かった人口の約4分の1となりました。また、国立社会保障・人口問題研究所によると、今から24年後の2040年には942人、44年後の2060年には521人になると推計されており、人口減少による地域の担い手不足や地域経済の衰退が予想され、町の存続において危機的な局面を迎えています。このことは、社会全体の構図であり人口減少社会における諸課題の解決に向けては、長期間を要するとともに、一自治体だけではなく、国や北海道、さらには周辺市町村との連携はもちろん、住民、企業、団体などあらゆる主体が問題意識を共有しながら、地域一丸となって取り組む必要があります。

このような危機的な状況に対応し、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくために、国では平成26年11月28日に「まち・ひと・しごと創生法」が制定され、この法律に基づき、中川町においても持続可能なまちづくりを目指すための、「中川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

“自然”“産業”“人”を地域固有の資源として捉え、将来にわたって元気で活力のある町、子育て世代から働く世代、さらには高齢となり退職しても安心・安全で豊かに暮らすことができる町を目指し、従来の取組みを継承しつつ、効果的な施策を体系化し加速化していく必要があります。

## 2. 計画期間

国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」と同様に、「中川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」も、平成27年度～平成31年度までの5年間とします。

### 3. まち・ひと・しごと創生総合戦略との関係

国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、地方における様々な施策による効果を集約し、人口減少に歯止めをかけ、東京への一極集中を是正するため、4つの基本目標を設定しています。また、人口減少の克服と地方創生を確実に実現するため「まち・ひと・しごと創生総合戦略」政策5原則を掲げて、関連する施策を展開していくものとされています。

本町の総合戦略も、これらを踏まえ基本目標を設定し、各施策を展開します。

#### 「まち・ひと・しごと創生総合戦略」 4つの基本目標

<基本目標①>地方における安定した雇用を創出する

2020年までの5年間の累計で地方に30万人分の若者向け雇用を創出。

<基本目標②>地方への新しいひとの流れをつくる

2020年に東京圏から地方への転出を4万人増、地方から東京圏への転入を6万人減少させ、東京圏から地方の転出入を均衡。

<基本目標③>若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

2020年に結婚希望実績指標を80%、夫婦子ども数予定実績指標を95%に向上。

<基本目標④>時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

「小さな拠点」の整備や「地域連携」を推進する。目標数値は、地方版総合戦略の状況を踏まえ設定。

#### 「まち・ひと・しごと創生総合戦略」 政策5原則

##### ①自立性

・構造的な問題に対処し、地方公共団体、民間事業者、個人等の自立につなげる。

##### ②将来性

・地方が自主的かつ主体的に、夢を持って前向きに取り組むことを支援する。

##### ③地域性

・各地域の実態に合った施策を支援。国は支援の受け手側の視点に立って支援する。

##### ④直接性

・最大限の成果をあげるため、直接的に支援する施策を集中的に実施する。

##### ⑤結果重視

・PDCAメカニズムの下、具体的な数値目標を設定し、効果検証と改善を実施する。

#### 4. 第6次中川町総合計画との関係

中川町では平成26年度に第6次中川町総合計画を策定しました。総合計画は、全ての計画の基本となり、まちづくりの最上位に位置づけられる計画です。

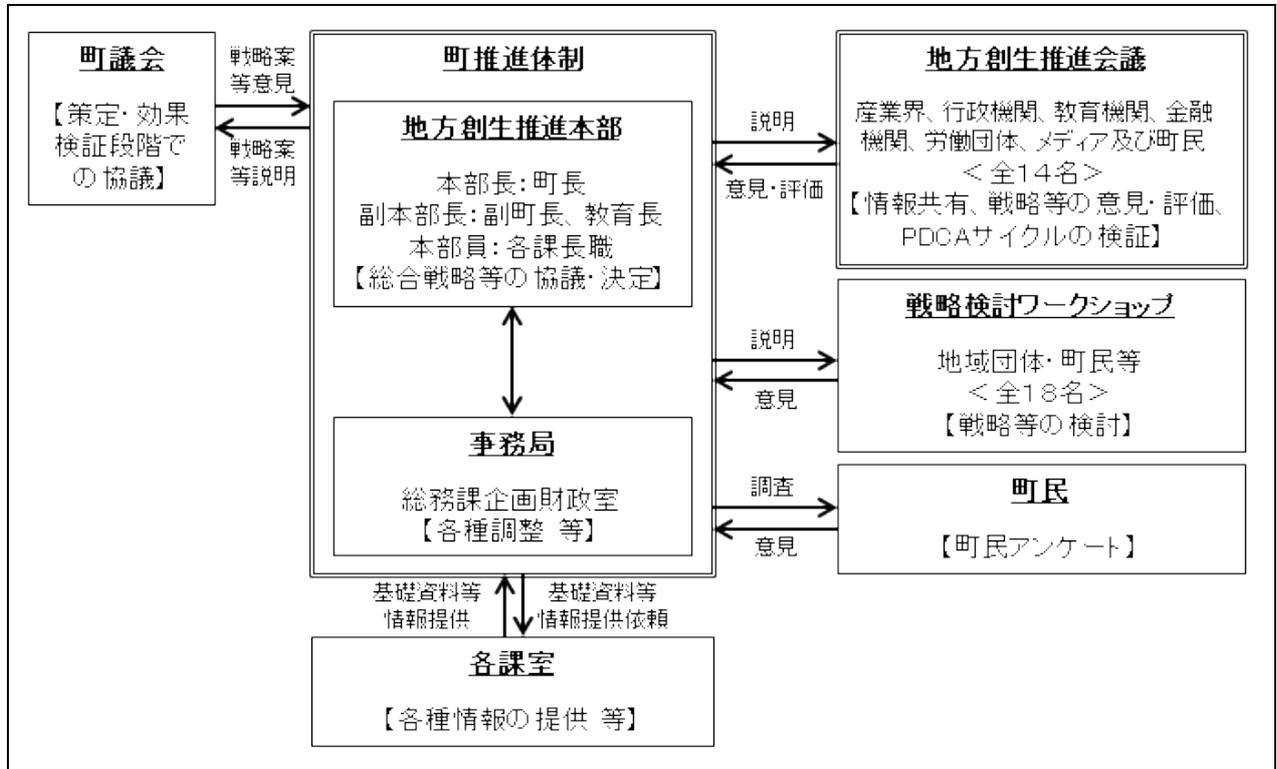
本戦略においても、基本的方向性や具体的な施策については、総合計画を踏まえ展開します。

第6次中川町総合計画		
分野別の実現方向	基本計画	主な施策
●まちづくりの将来像 元気発信・笑顔の大地・夢開花なかがわ		
●基本計画と施策		
第1章 暮らしやすさを実感する まちづくり	第1節 温かみのある暮らし	1. 地域福祉の強化 2. 高齢者福祉の充実 3. 子育て支援 4. 自立した生活への支援
	第2節 快適な暮らし	1. 居住環境の整備 2. 水道の供給 3. 下水道施設の整備
	第3節 安心できる暮らし	1. 保健・医療の充実 2. 消防・救急の充実 3. 地域防災の強化 4. 交通安全・防犯対策等の充実
第2章 豊かさとうるおいを実感する まちづくり	第1節 基盤の強化	1. 計画的な土地利用 2. 道路交通網の整備 3. 交通機関の利便性の向上 4. 情報・通信基盤の整備
	第2節 産業の安定	1. 農業の振興 2. 林業の振興 3. 内水面産業の振興 4. 商・工業等の振興 5. 観光の振興
	第3節 産業開発の促進	1. 産業間の連携強化 2. 新たな地域産業おこし 3. 担い手の育成と確保 4. 働きやすい環境づくり
第3章 すばらしい自然を実感する まちづくり	第1節 豊かな自然の継承	1. 自然の保全 2. 自然との共生
	第2節 自然に優しいまちづくり	1. ごみ処理・リサイクル 2. 環境衛生・美化活動
	第3節 美しい風景づくり	1. 景観の形成 2. 公園・憩いの空間づくり
第4章 中川らしい楽しみを実感する まちづくり	第1節 健やかなからだづくり	1. 健康づくりの展開 2. スポーツ活動の普及
	第2節 中川文化を育む	1. 地域文化の振興 2. 歴史と文化遺産の継承
	第3節 明日を担う人づくり	1. 生涯学習の推進 2. 学校教育の充実 3. 社会教育の充実
第5章 誇らかな町を実感する まちづくり	第1節 協働のまちづくり	1. 町民の参画 2. まちづくりの情報交流
	第2節 なかがわファンづくり	1. 地域間交流の展開 2. 情報発信機能の強化 3. 交流人材の受け入れ体制づくり
	第3節 実感を支える行財政	1. 行政運営の充実 2. 財政運営の充実 3. 広域行政の推進

## 5. 取組み体制と戦略の展開

### (1) 取組み体制

総合戦略の策定にあたって、以下の体制で検討を行いました。



## (2) 戦略の展開

### ①成果目標の明確化

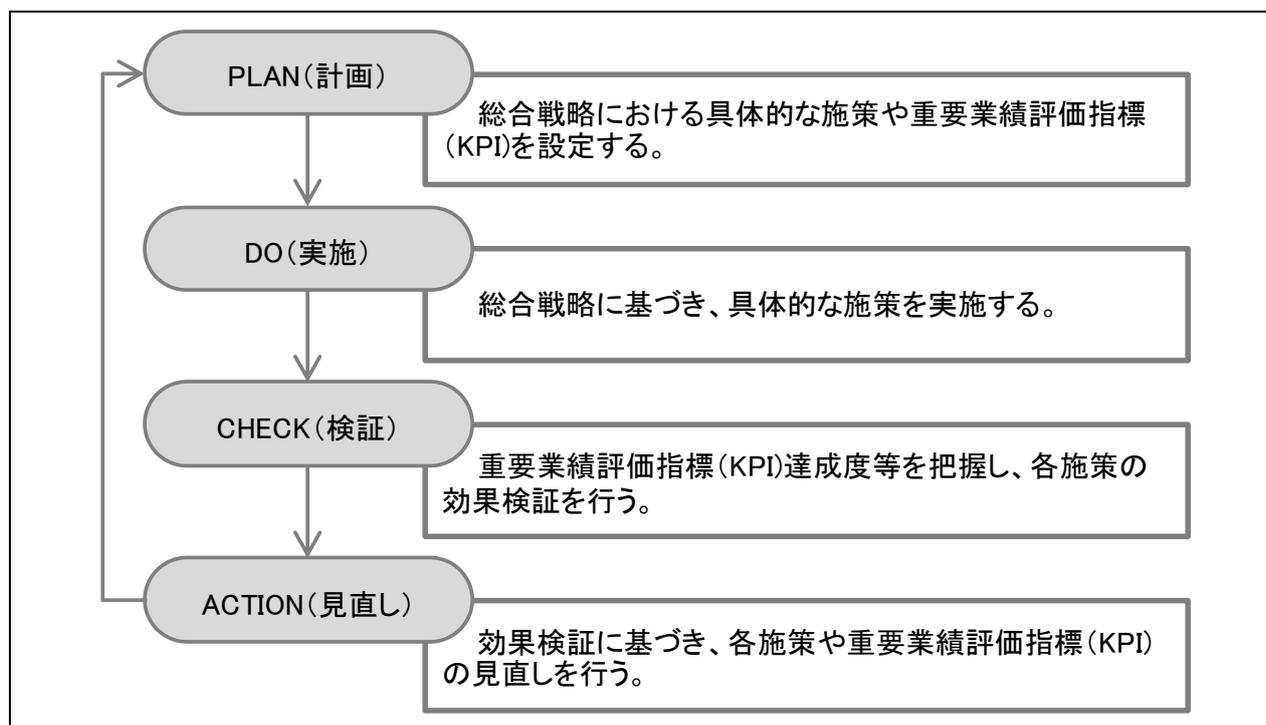
総合戦略では、中川町における人口ビジョン（別紙参照）を踏まえ、基本目標を設定するとともに、基本目標を達成するための施策ごとの効果を客観的に検証できる成果目標として「重要業績評価指標（KPI）」を設定します。

### ②広域や多様な主体との連携

総合戦略の展開にあたっては、北・北海道中央圏域定住自立圏、天塩の国会議、君の椅子プロジェクト、シーニックバイウェイなどの既存の広域連携や新たな広域連携とともに、官民連携等による多様な主体と連携を図りつつ、取組みを展開します。

### ③PDCA サイクルによる見直し改善

総合戦略の進捗管理にあたっては、毎年度、重要業績評価指標（KPI）により各施策の効果検証を行い、町民や関係団体とともに、PDCA サイクルにて総合戦略を改善・推進します。



### ④定期的に住民が話し合える環境づくり

総合戦略の検討にあたっては、一般住民が参加できる「戦略検討ワークショップ」を開催し、総合戦略の検討・策定を行いました。総合戦略を具体的に展開し、見直し・改善するにあたっては、一般住民の意見を広く取り入れるため、定期的に住民が話し合える環境づくりを行います。

## 6. 目指す姿

中川町の豊かな自然資源や、特色ある産業、人材を活用し、官民連携、地域間連携及び政策間連携を意識しながら総合戦略に掲げた施策を着実に実行します。

### －中川町が目指す姿－

乳幼児から働く世代、高齢者まで、すべてのライフステージにおける施策を着実に実行し、人口減少社会に対応した持続可能な地域を目指します。

## 7. 基本目標

中川町ではライフステージごとに、以下の基本目標を設定します。

### －中川町の目標－

目標 1. 高齢になってもずっと住み続けられる町を目指します。

公共交通機能や交通支援対策の充実等による生活交通の整備や冬の暮らしの支援、また、地域医療体制の充実と健康の維持増進等により高齢者の社会参加を促進し、高齢になっても安心して住み続けられる町を目指します。

目標 2. 地域の特色を活かした産業の振興で、新たな雇用の創出を目指します。

日本最北の畑作地帯として耕畜連携によるクリーン農業や、森林文化の再生をテーマに豊富な森林資源を活用した持続的な林業経営を振興し、付加価値の高い農林業を目指すことで、新たな雇道を創出します。

目標 3. 中川町特有の資源を最大限活用し、交流人口の拡大を目指します。

北の大河“天塩川”、北海道大学中川研究林、白亜紀の地層などの自然資源や、天塩川と並行する国道 40 号、JR 宗谷本線などを最大限に活用し、地域間連携を重視しながら都市部との交流を進め、「なかがわファン」づくりを通して交流人口の拡大を目指します。

目標 4. “田舎暮らし”希望者の移住・定住化を目指します。

都会にはない自然豊かな環境を魅力として、“田舎暮らし”を求める都会からの移住者、定住者の増加を目指すとともに、住宅関連施策と情報受発信機能を充実します。

目標 5. 安心・安全で楽しく子育てができる環境を目指します。

子どもは地域における財産です。安心して産み、健やかに育てることができる環境を整備し、地域ぐるみですべての子育て家庭が、楽しく子育てができる環境を目指します。

## 8. 具体的施策と重要業績評価指標（KPI）

各目標ごとの具体的な施策、重要業績評価指標(KPI)は以下のとおりです。

### (1) 高齢になってもずっと住み続けられる町

公共交通機能や交通支援対策の充実等による生活交通の整備や冬の暮らしの支援、また、地域医療体制の充実と健康の維持増進等により高齢者の社会参加を促進し、高齢になっても安心して住み続けられる町を目指します。

目標	高齢者の暮らし(健康)の不安の低減
目標値	H27 調査時 77.4%→60.0%

#### ①生活交通の整備と冬の暮らしの支援

地域における唯一の広域公共交通機能である JR 宗谷本線や住民バスについて、高齢者等を含めた町民一般の生活交通の利便性確保を図ります。また、交通弱者への対策として、高齢者ハイヤー助成などによる交通支援対策を充実し、社会参加の促進を図ります。

高齢者や障がい者等の低所得者世帯に対して、寒冷降雪の状況や、電気・灯油代などの価格状況に鑑み、冬期の生活を支援することで暮らしやすい環境を整備します。

具体的な施策	現状値	H31 年度 目標値 (KPI)
交通支援対策の充実 公共交通機能の充実 冬期生活支援の充実	高齢者(65 歳以上)人口の 社会減 H24～26 平均値 17.3 人/年	10 人/年

#### ②地域医療体制の充実と健康の維持増進

高齢になっても地域で安心して生活ができるように、医療スタッフの確保、保健事業と連携した地域医療、センター病院との連携による救急医療体制の支援と充実を図ります。

介護予防運動教室や軽易な生活支援を実施することで、高齢になっても住み慣れた地域で健康な暮らしができるよう、在宅支援の充実を図ります。

町民の健康増進やコミュニケーション機会の創出を目的として、ポンピラアクアリズイングの入浴施設機能の活用を促進します。

具体的な施策	現状値	H31 年度 目標値 (KPI)
医療スタッフの確保支援	医師、歯科医師 2 名	維持
保健事業と連携した地域医療の充実	看護師 6 名	
センター病院と連携した救急医療体制の充実		
介護予防運動教室による在宅支援	在宅支援 326 人/年	350 人/年
ポンピラアクアリズイング入浴施設の活用	入浴 42.9 回/人	50 回/人

## (2) 地域の特色を活かした産業の振興で、新たな雇用創出

日本最北の畑作地帯として耕畜連携によるクリーン農業や、森林文化の再生をテーマに豊富な森林資源を活用した持続的な林業経営を振興し、付加価値の高い農林業を目指すことで、新たな雇用を創出します。

目 標 新規就業者数

目標値 10人

### ①最北の耕畜連携による地域農業の振興

畜産農家と畑作農家との連携、家畜ふん尿の活用について研究し、再生可能エネルギーや有機肥料化による地域循環型のオーガニックな土づくりで、環境に配慮したクリーンな農業生産体制を目指し、地域農業の振興を図ります。

農業基盤整備とともに生産団地の集約化を図り、効率的な農地の活用と保全を図ります。また、グリーンツーリズムの研究などを通して消費者と生産者の交流を図り、産地の見える農業の展開を目指します。

農業経営の近代化や、事業と技術の継続性・継承性の観点から、家族協定化や法人化を推進します。また、農業振興センター機能の充実と、自給飼料生産体制の強化により、生産力の向上、労働力の軽減及び事業の効率化を図り、持続的な農業経営を確立します。

具体的な施策	現状値	H31年度 目標値 (KPI)
循環型のオーガニックな土づくり		
家畜ふん尿の活用(エネルギー・有機肥料)	荒廃農地面積 142ha	80ha
消費者と生産者の交流	協定・法人 13戸	20戸
農業基盤整備、遊休・荒廃農地の利活用	農家数 41戸	46戸
家族協定化、法人化の推進		
農業振興センター、自給飼料生産体制の充実		

### ②森林文化の再生

豊かな森林づくりを進めるため、路網を中心とした林業基盤整備や、森林ICTプラットフォームを活用した持続的で安定的な森林経営とともに、遊休農地の樹林化による経営可能地の拡大に取り組めます。

町産材のブランディングとともに山地未利用材の活用による高付加価値化を図ります。

生物多様性に高度に配慮した森づくりを進めるため、天然林更新技術を含む天然林管理経営技術の確立を目指します。

緑の雇用制度による人材育成に取り組む企業への支援を含め、学術研究機関や民間企業と連携した担い手育成に努めます。

地域で自立的な経済循環を生み出すため、“薪”を核とした木質バイオマスエネルギーの活用を図ります。

野生動物の生息管理と有効利用を推進し、生物多様性に配慮した森林被害防止対策に取り組めます。

具体的な施策	現状値	H31 年度 目標値 (KPI)
安定的な木材生産	木材生産量 1,500 m <sup>3</sup> /年	2,000 m <sup>3</sup> /年
経営可能地拡大	経営可能地 2,060ha	2,160ha
山地未利用材の活用	薪生産量 80 m <sup>3</sup> /年	400 m <sup>3</sup> /年
町産材ブランディング	クラフト 50 ケ/年	500 ケ/年
木質バイオマス利用	木材単価 8,000 円/年	12,000 円/m <sup>3</sup>
野生動物の管理と有効利用	—	バイオマスの公共施設利 用 700 m <sup>3</sup> /年

### ③農林商工業の連携等の支援

農林業者と商工業者がそれぞれ有する経営資源を互いに持ち寄り、地域の素材を活用した新たな商品やサービスの開発などに取組むことで、雇用環境の整備や拡大を目指す6次化に向けた農林商工業の連携等を支援します。

地域の基幹産業である農林業を中心として、商業、工業等の産業間で連携して実施する地域密着型事業活動の支援を行います。また、新たな事業や業種への進出、共同事業や協業化への支援を積極的に展開し、雇用の創出を目指します。

具体的な施策	現状値	H31 年度 目標値 (KPI)
農林商工業が連携する地域密着型事業活動の支援		
共同事業や協業化支援、起業支援	—	起業 5 件
地域素材を活用した特産品開発	—	開発品 10 品

### (3) 中川町特有の資源を最大限活用し、交流人口拡大

北の大河「天塩川」、北海道大学中川研究林、白亜紀の地層などの自然資源や、天塩川と並行する国道40号、JR宗谷本線などを最大限に活用し、地域間連携を重視しながら都市部との交流を進め、「なかがわファン」づくりを通して交流人口の拡大を目指します。

目 標 観光等入込客数

目標値 平成26年度 84,800人 → 100,000人

#### ①都市との交流による「なかがわファン」づくり

本町と交流事業を展開してきた東京都世田谷区及び下高井戸商店街(世田谷区)との連携により、都市部における情報受発信の取組みを強化し、交流人口を増加します。

ポンピラアクアライズイング、道の駅なかがわ、ナポートパーク、交流プラザ(JR天塩中川駅)等の観光宿泊施設における情報受発信機能を高め、交流人口の受入体制を整備します。

ふるさと納税制度の活用について検討し、納税者に対し中川町らしい謝意を示し、積極的なPR活動を展開します。また、特産品等の返礼を通して町の認知度や好感度の向上を目指し、なかがわファンづくりから、交流人口の拡大を図ります。

具体的な施策	現状値	H31 年度 目標値 (KPI)
東京都世田谷区との交流	—	来町者 50 名
情報発信施設の機能強化(下高井戸商店街との連携)	—	来場者 54,000 人/年
ふるさと納税	納税額 767,000 円/年	1,000,000 円/年

## ②白亜紀の地層に学ぶ

地球の歴史を体感できる、「中川町エコミュージアム構想」の核施設である中川町エコミュージアムセンターを拠点に、学術研究や化石標本の蓄積、地層観察教室や講演会の開催、小中学校や各種団体への体験学習の実施、町内外における展示物などの情報発信を行い、白亜紀の地層から地域や地球を学ぶ環境づくりを行います。

真珠層が保存された美しいアンモナイトの化石や日本最大級のクビナガリュウの復元骨格など、中川町で発掘された化石や土器などの展示物に関する情報発信を積極的に展開し、入館者や施設利用者などの増加を目指します。

具体的な施策	現状値	H31 年度 目標値 (KPI)
学術研究と化石標本の蓄積 地層観察教室・講演会の開催、体験学習 展示物などの情報発信	来館者数 2,957 人/年	3,000 人/年

## ③地域資源を活かした観光振興

地域おこし協力隊を含めた移住者との連携を強化し、自然との共生、生物多様性、森林文化の再生の取組みに外からの目線を取り入れながら、中川町の魅力を再発見し、地域らしい観光資源の発掘を進めます。

スイスが取り組んでいる自転車やカヌー、公共交通等を組み合わせた新たな旅行スタイル「スイスモビリティ」を参考に、中川町及び道北地域の特性を活かした「道北版スイスモビリティ」の提案を行い、新たな旅行体系の確立と関係施設の環境整備を支援します。

白亜紀の地層や釣り人を魅了する自然豊かな河川、鉄道の除雪を行う道北特有のラッセル車など、地域の特性や資源を最大限に活用し、交流人口の拡大を目指したマニアが集まる観光地づくりを展開します。

具体的な施策	現状値	H31 年度 目標値 (KPI)
移住者との連携	—	マップ等作成 4 冊
新たな旅行体系の提案(道北版スイスモビリティ)	—	イベント来町者数
マニアが集まる観光地づくり	—	100 名/年
アウトドアインストラクターの養成確保	—	ガイド 2 名

#### (4) “田舎暮らし” 希望者の移住・定住化

都会にはない自然豊かな環境を魅力として、“田舎暮らし”を求める都会からの移住者、定住者の増加を目指すとともに、住宅関連施策と情報発信機能を充実します。

目 標	移住・定住者数
目標値	5人

##### ①生活居住環境等の快適化

町への移住、定住の増加を目指し、宅地の斡旋、住宅の新築やリフォーム、民間賃貸住宅建設の促進に取り組むことで、町民の生活居住環境の快適化と移住環境の整備を図ります。また、これらの施策を積極的にPRすることで、定住の促進を図ります。

具体的な施策	現状値	H31年度 目標値 (KPI)
住宅新築、リフォーム支援 民間賃貸住宅建設の促進 移住者への支援	民間供給 22戸	30戸

##### ②移住対策の強化

自然豊かな中川町への移住希望者を受け入れるため、ちょっと暮らし住宅の整備や空き屋バンクの創設など、移住対策の強化を図ります。

移住を希望する都市住民等が気軽に中川町での暮らしを体験できるように、ちょっと暮らし住宅の活用や空き家情報、子育て支援などの生活情報を積極的にPRします。

具体的な施策	現状値	H31年度 目標値 (KPI)
ちょっと暮らし住宅の充実 空家バンク	利用者 5名/年 登録件数 -	10名/年 5件

##### ③地域おこし協力隊制度等の活用

地域おこし協力隊等の積極的な任用と徹底した支援を実施することで、地域への定住化・定着化を図ります。

地域産業の担い手不足の現状から、協力隊制度や新規就農をはじめとした農業・商工業振興施策の活用で、新たな担い手として受け入れた人材の定住・定着を支援します。

具体的な施策	現状値	H31年度 目標値 (KPI)
地域おこし協力隊の任用と支援 新規就農の斡旋	任用 5名	8名

## (5) 安心・安全で楽しく子育てができる環境づくり

子どもは地域における財産です。安心して産み、健やかに育てることができる環境を整備し、地域ぐるみですべての子育て家庭が、楽しく子育てができる環境を目指します。

目 標 出生者数

目標値 平成 22～26 年度 平均 14.2 人/年 → 16.0 人/年

### ①子育てに喜びを感じる環境

誰でも快適に子育てができるように、保護者のニーズを的確に捉えた保育機能の充実強化とともに、保育料や医療費などの費用負担の軽減を実施し、保育施設等の利用しやすい環境づくりに努めます。

子どもの病気予防のための予防接種助成や、多子世帯の保育料の軽減を検討し、子育てを経済的に支援し、子育てに喜びを感じられる環境を整備することで出生数の増加を期待します。

自然豊かな中川町で、親や子どもが遊びながら健やかに成長できるよう、施設、公園等の設備や機能を充実します。

具体的な施策	現状値	H31 年度 目標値 (KPI)
保育機能の強化(一時預かり、延長保育) 保育料、医療費、出産の支援 予防接種助成 施設、公園等の充実	H22～26 平均 幼児センター満足度 87.2%	95.0%

### ②子どもの育ちの支援

中川町の次世代を担う子どもたちの生きる力を育むため、学力・体力の向上や、特色ある教育活動の推進を図るとともに、ふるさとへの愛着や誇りを育むため、地域特性を教材としたふるさと学習や食の学習など推進し、健全な子どもの育ちを支援します。

具体的な施策	現状値	H31 年度 目標値 (KPI)
放課後子どもプランの推進 ふるさと学習、食の学習 「コオパティネーショントレーニング」の推進 学力向上の支援	放課後児童クラブ定員 30 名 なかがわ塾の利用 生徒数の 83%	40 名 生徒数の 90%

### ③地域ぐるみで子どもと子育てを支援

子育てに悩む親の相談体制を充実し、地域ぐるみで子育てを支援する環境を整備します。

子育て中の親子が気軽に集い、相互に交流しながら子育ての不安や悩みを相談できる場として、地域子育て支援拠点事業を展開します。

町内で生まれた子どもたちに、出生を記念してその存在を地域社会で認める「君の椅子」、出生祝い金及び書籍をプレゼントし、地域ぐるみで子育てを支援します。

中川町における高等学校教育の機会の均等と地域社会に有為な人材の育成を図るため、高等学校

等の就学費について支援します。

具体的な施策	現状値	H31 年度 目標値 (KPI)
地域子育て支援拠点事業 君の椅子プロジェクト 出生祝い金 高等学校等の就学支援	—	子育て支援の満足度 90%

## 9. 参考資料【町民アンケート調査】

実施時期	平成 27 年 11 月 9 日～20 日までの 12 日間	
実施方法	郵送調査法（郵送配布・郵送回収）	
配布数	585 票	(内訳) ・高齢者の方へのアンケート 282 票 ・子育て世代の方、女性の方へのアンケート 85 票 ・働く世代の方へのアンケート 218 票
回収数	275 票 (回収率 47%)	(内訳) ・高齢者の方へのアンケート：161 票 (回収率 57%) ・子育て世代の方、女性の方へのアンケート：32 票 (回収率 37%) ・働く世代の方向けアンケート：82 票 (回収率 37%)
結果概要	高齢者の方 子育て世代の方、女性の方 働く世代の方	日常生活における不安は「自身や家族の健康」についての意見が多く、健康的な日常生活を送る上で必要なことは「診療所の維持や充実」「健康や体力づくり活動を増やす」との意見が多かった。 約 7 割は転入者で、理想的な子供数は 2 人・3 人ともに約 4 割であった。出産子育てに必要なことは、「子育て費用の負担軽減」が最も多かった。 職業としては建設業が約 25%、公務員が 21%、農業が 13%で、約 6 割は町外に子供がおり、子育てに必要なことは、「進学・通学等に関わる経済的支援」が最も多かった。

### 高齢者の方へのアンケート

### 子育て世代の方、女性の方へのアンケート

### 働く世代の方向けアンケート

高齢者の方へのアンケート

【中川町まち・ひと・しごと創生総合戦略に関する住民アンケート】  
アンケートへのご協力をお願いいたします

1. アンケートに回答する方ご自身について

問1 あなたの性別を教えてください。【12桁をうつして下さい】

(1) 男性 (2) 女性

問2 あなたの年齢を教えてください。【年齢を記入して下さい】

\_\_\_\_\_歳

問3 あなたの住居形態を教えてください。【12桁をうつして下さい】

(1) 企業などの経営者・役員 (2) 会社員・公務員 (3) 自営業  
(4) アルバイト・パート (5) 主婦(専業主婦) (6) 無職  
(7) その他【具体的に記入して下さい】

問4 職住、あなたと同居されているご家族を教えてください。  
【全ては必要です。全て12桁をうつして下さい】

(1) ひとり暮らし (2) 配偶者 (3) お子さま (4) 子の配偶者 (5) 兄弟・姉妹  
(6) お孫さん (7) その他【具体的に記入して下さい】

問5 職住のあなたのお住まいの形態について教えてください。【12桁をうつして下さい】

(1) 持ち家（一戸建て） (2) 持ち家（集合住宅） (3) 民間賃貸住宅（一戸建て）  
(4) 民間賃貸住宅（集合住宅） (5) 町営等の公営住宅 (6) 社宅・官舎・寮  
(7) その他【具体的に記入して下さい】

問6 あなたが中川町に住んでからどれくらい経ちましたか。【12桁をうつして下さい】

(1) 半年未満 (2) 半年以上～1年未満 (3) 1年以上～2年未満  
(4) 3年以上～5年未満 (5) 5年以上～10年未満 (6) 10年以上～20年未満  
(7) 20年以上

A3 両面/二つ折り

子育て世代・女性の方へのアンケート

【中川町まち・ひと・しごと創生総合戦略に関する住民アンケート】  
アンケートへのご協力をお願いいたします

1. アンケートに回答する方ご自身について

問1 あなたの年齢を教えてください。【年齢を記入して下さい】

\_\_\_\_\_歳

問2 あなたの住居形態を教えてください。【12桁をうつして下さい】

(1) 企業などの経営者・役員 (2) 会社員・公務員 (3) 自営業  
(4) アルバイト・パート (5) 主婦(専業主婦) (6) 学生  
(7) 無職 (8) その他【具体的に記入して下さい】

問3 職住、あなたと同居されているご家族を教えてください。  
【全ては必要です。全て12桁をうつして下さい】

(1) ひとり暮らし (2) 配偶者 (3) お子さま (4) 子の配偶者 (5) 兄弟・姉妹  
(6) 父母・親父母 (7) 祖父 (8) その他【具体的に記入して下さい】

問4 職住のあなたのお住まいの形態について教えてください。【12桁をうつして下さい】

(1) 持ち家（一戸建て） (2) 持ち家（集合住宅） (3) 民間賃貸住宅（一戸建て）  
(4) 民間賃貸住宅（集合住宅） (5) 町営等の公営住宅 (6) 社宅・官舎・寮  
(7) その他【具体的に記入して下さい】

問5 あなたが中川町に住んでからどれくらい経ちましたか。【12桁をうつして下さい】

(1) 半年未満 (2) 半年以上～1年未満 (3) 1年以上～2年未満  
(4) 3年以上～5年未満 (5) 5年以上～10年未満 (6) 10年以上～20年未満  
(7) 20年以上

A3 両面/二つ折り

働く世代の方へのアンケート

【中川町まち・ひと・しごと創生総合戦略に関する住民アンケート】  
アンケートへのご協力をお願いいたします

1. アンケートに回答する方ご自身について

問1 あなたの年齢を教えてください。【年齢を記入して下さい】

\_\_\_\_\_歳

問2 あなたの住居形態を教えてください。【12桁をうつして下さい】

(1) 企業などの経営者・役員 (2) 会社員・公務員 (3) 自営業  
(4) アルバイト・パート (5) 主婦(専業主婦) (6) 学生  
(7) 無職 (8) その他【具体的に記入して下さい】

問3 職住、あなたと同居されているご家族を教えてください。  
【全ては必要です。全て12桁をうつして下さい】

(1) ひとり暮らし (2) 配偶者 (3) お子さま (4) 子の配偶者 (5) 兄弟・姉妹  
(6) 父母・親父母 (7) 祖父 (8) その他【具体的に記入して下さい】

問4 職住のあなたのお住まいの形態について教えてください。【12桁をうつして下さい】

(1) 持ち家（一戸建て） (2) 持ち家（集合住宅） (3) 民間賃貸住宅（一戸建て）  
(4) 民間賃貸住宅（集合住宅） (5) 町営等の公営住宅 (6) 社宅・官舎・寮  
(7) その他【具体的に記入して下さい】

問5 あなたが中川町に住んでからどれくらい経ちましたか。【12桁をうつして下さい】

(1) 半年未満 (2) 半年以上～1年未満 (3) 1年以上～2年未満  
(4) 3年以上～5年未満 (5) 5年以上～10年未満 (6) 10年以上～20年未満  
(7) 20年以上

A4/5 頁